

## 大学の世界展開力強化事業（令和元年度選定）中間評価結果

大 学 名	東京外国語大学
整 理 番 号	1
事 業 名	歴史と公共圏を鍵概念として日欧相互理解を深める国際人材育成プログラム

### 大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価

(総括評価)  <b style="font-size: 2em;">A</b>	これまでの取組を継続することによって、事業目的を達成することが可能と判断される。
(コメント) <p>                     本事業は、「公共圏の歴史」を主テーマに、従来交流のあった EU 側 4 大学と連携し、DD 修士プログラムを組み入れた実務家育成プログラムである。COVID-19 の影響を受け渡航が制限される中でも、オンデマンドでの講義配信やビデオ会議運営等迅速かつ適切な対応を行った点、各大学の教職員の間でコミュニケーションを図り、想定以上の教員が参画する等、質を伴った協同教育の展開がなされてきた点、定期的な合同マネジメント会議でプログラム遂行の課題等を検討する等プログラム遂行のための体制を整備し、日 EU 双方のカリキュラムの特長を活かしたプログラムを構築しようとしている点等は高く評価できる。                 </p> <p>                     一方、日本側の応募者数は大幅に目標を下回っており、本事業を安定的に運営していく上で大きな懸念材料となっている。EU からのプログラム参加者が目標を上回っていることを考慮すると、日本側参加者が伸び悩んでいる理由としてコロナ禍以外の要因も考慮していくべきであろう。また、単位制度の実質化、特に ECTS の定める授業外での学習時間の確保が十分保証されていないこと等、EU 側連携大学との教育の互換性の向上については、課題が残っている。さらに、当初計画していた DD から JD への移行については、手続きが進んでいない。これらの課題を克服し、より大きな成果を上げるために戦略的かつ組織的な取組が進められるべきである。                 </p> <p>                     最後に、今後も本事業終了後の継続的な実施を見据えた事業計画の策定と安定的な財源確保に努め、学内及び関係機関との質保証を伴う国際教育連携の推進とともに、将来の我が国と相手国の大学間交流の更なる促進と発展に向け、引き続き積極的な事業展開に取り組まれることを期待する。                 </p>	